

視点を換えれば、世の中は変わる。



Rethink フォーラム

Rethink=視点を換えて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を換えて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っていきます。

そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



テーマ

Rethink沖縄

～まちに笑顔と元気を観光・環境とLRT～

「Rethink沖縄～まちに笑顔と元気を観光・環境とLRT」(主催・沖縄タイムス社、共催・Rethink PROJECT)が8月22日、那覇市の沖縄ハーバービューホテルで開かれました。LRT(次世代型路面電車)導入が発表され注目される県都那覇。そのポテンシャルを生かした観光振興、地域活性化、環境美化について、副市長の古謝玄太さん、JT沖縄支社長の尾島厚志さん、琉球料理家で沖縄観光大使の嘉陽かずみさんが語り合いました。モデレーターは沖縄タイムス社編集局長の赤嶺由紀子さん。鼎談(ていだん)の様子をご紹介します。



会場協力=沖縄ハーバービューホテル

出席者

モデレーター



古謝玄太さん (那覇市副市長)

1983年生まれ。那覇市出身。東大卒。2008年、総務省入省。復興庁参事官補佐を経て、20年からNTTデータ経営研究所(東京都)。22年参議院選挙に沖縄選挙区で自民党から立候補。新規事業開発などを手がける「琉球ミライ社」シニアマネージャー。同年12月に那覇市副市長に就任。



尾島厚志さん (JT沖縄支社長)

1982年生まれ。法政大卒。2004年コスモ石油入社、09年日本電気入社、10年日本たばこ産業(JT)入社。事業企画室課長、営業部課長、法人営業部重販担当部長、沖縄支社副社長を経て、23年4月に沖縄支社長就任。



嘉陽かずみさん (琉球料理家・沖縄観光大使)

那覇市出身。料理講師経験1級、食育インストラクター1級、介護食士2級、国際中医学業講師、スタイリストとして活動後、フードコーディネーターへ転身。琉球料理研究家松本高代子氏の助手を務め琉球料理を基礎から学ぶ。2007年「よんなーフード嘉陽かずみ料理教室」を開校。沖縄行事をこころ主として、経験と感性が削り出す。観光客向けサービスとして市場ツアーと沖縄料理体験教室を実施するなど独自の世界を展開。県外への出張料理教室も数多く実施。



赤嶺由紀子さん (沖縄タイムス社編集局長)

1971年生まれ。那覇市出身。琉球大卒。1997年沖縄タイムス社入社。社会部、学芸部、政経部などに所属。2016年に中部報道部長、2019年に政経部長。社会部長、編集局次長を経て、2024年7月から現職。

「古謝」2022年の沖縄復帰50年に立ち上げた「ROD」FCU50という勉強会において、復帰100年後に向けて「赤嶺」コロナ禍を経てにぎわいが戻ってきている一方、人手不足の深刻化や、こみや渋滞など以前からの課題もあり。今後の観光振興について那覇市のビジョン、施策は。

「古謝」「DIX推進です。お客さまへの案内、相談を受けられるプラットフォームがあった上で、一度来た方に再訪を促し、沖縄の魅力を伝えることができればもったいないと思います。また、もう泊まる人を増やすため、ラグジュアリーな、高単価なサービスをもっと導入したいと思っています。」

「尾島」DIXは、人です。引き付ける力と寛容性。食など文化を共有し楽しむこともそうです。多種多様な人が集まる中でも、ハイアスをかけずに受け入れる態勢、これが沖縄の強みだと思います。

「赤嶺」DIXは、人です。引き付ける力と寛容性。食など文化を共有し楽しむこともそうです。多種多様な人が集まる中でも、ハイアスをかけずに受け入れる態勢、これが沖縄の強みだと思います。

01 多様性と寛容性 沖縄の強み



那覇文化芸術劇場なはーと

「赤嶺」観光振興を進める中で、環境課題は切り離せません。JT沖縄支社が続けている「ひろえは街が好きになる運動」について教えてください。

「尾島」地域社会への貢献活動であるRethink PROJECTの環で、毎年5月30日「こみせロの日」に県内の協力企業、団体の皆さんと一緒に「ひろえは街が好きになる運動」という清掃活動を実施しています。私たちは「ひろえは街が好きになる運動」を通じて、「すてない」気持ちを育てたい、という思いで活動しています。今回は古謝副市長にも参加いただき、那覇高校の生徒も120人くらい集まりました。また、宮古島では今回初めて、車載カメラを使ってのあたり「こみや落ちてくるかを分析し、清掃活動に生かすテクノロジーを取り入れました。農家の車、市役所のパトロールカー、地域のボランティア団体の車にカメラを付けて島全体を回り、集積したデータをもとに効率的に清掃活動をおこないました。自分たちの住む地域を自分たちできれいにする意識の醸成、地域と協働したことは官民連携の意味でも大きなポイントでした。」

「古謝」なはの日(7月8日)に合わせた清掃活動にはJTさんに参加いただきました。

「赤嶺」LRTに期待が寄せられています。今後のまち作りへの効果や影響は。

第一牧志公設市場

02 「捨てない心」育つ 誰もが移動しやすい街

「赤嶺」これは、お話までのお話も踏まえ、「元気で笑顔のあふれるなはのまち」実現に向けたご意見を。

「尾島」私自身、沖縄支社に来て視点が変わりました。沖縄には多くの生産者がいます。メーカーとしての視点だけでなく、生産者、販売者を含めたバリューチェーン全体を見て、それぞれの立場を尊重し活動していくことに注力しています。自分の当たり前を世の中の中の当たり前と思わず、さまざまな業界、職種の方々の意見を聞き、視点を変えてみることで行動が変わり、新たな発見ができる。それを通じて未来が変わっていくと思います。

「赤嶺」これは、お話までのお話も踏まえ、「元気で笑顔のあふれるなはのまち」実現に向けたご意見を。

「尾島」本質は福祉にあるのだと思います。現状、沖縄は高齢化率が低いです。高齢化が喫緊の課題になる前に着手することは重要だと思います。高齢者が行きたい所に自分の体を動かして行ける環境づくりには共感しています。先ほどの観光プラットフォームの話と同様に、一つのアプリケーションで那覇や沖縄の交通が網羅でき、高齢者もシングルサインオンでしっかり使えて、いろいろなところと連携し、アプリ一つで完結する仕組みができたらいですね。トラッキング機能を活用して、例えば認知症の高齢者が行方不明になった場合に経路がたどれるようにすれば、高齢者の見守りもより良い形になると思います。



ひろえは街が好きになる運動